

### 第3回「これからの神戸の学校教育に関する有識者会議」意見要旨

1. 日 時：令和6年3月7日（木）13:00～15:00
2. 場 所：教育委員会事務局 教育委員会会議室
3. 意見要旨：

#### ■議題1 パブリックコメントの実施結果について

- ・それぞれの意見について、保護者等の属性は分かるのか。  
（事務局）  
意見の文面から「保護者」と推測できる場合はあるが、基本的には分からない。
- ・多数の意見があり、高い関心を寄せていただいた。大規模なアンケートも行い、手続きをしっかりと踏んでいる印象。

#### ■議題2：第4期神戸市教育振興基本計画（案）について

※委員・オブザーバーとの意見交換を実施。

##### ○計画全体

- ・教育ビジョンが目立つような構成になっている印象。また、重点といえど、なかなか削れないと思うが、たくさん並んでいる印象で、変わったという印象には欠けるかもしれない。
- ・やはり文字が多い印象だが、リーフレットを見ると何がやりたいのかがよく分かる。
- ・計画として、過不足ない形としてまとまっていると思う。パブリックコメントのご意見をすべて盛り込む必要はないと考えており、今後の教育施策の参考としていただければと思う。
- ・本計画は、細かく記載するのではなく、全体像を分かりやすく、伝わりやすくつくっていくという方針のため、細かく書くとぼやけていく。個別の事業を進める際に参考としていけばよいのではないかと思う。
- ・第3期計画に比べ、分かりやすい形になり、とても見やすくなったと感じている。リーフレットは見開きで神戸が目指す形が伝わりやすくなっている。

##### ○基本政策1

- ・「子供が主役の」については、主役という言い方について、子どもの個性を伸ばすという教育委員会の狙いが伝わっていないように思う。
- ・基本政策2～5は内容が具体的で分かりやすいが、基本政策1は教師主導の教育から、子供が主役の学びへ転換するというメッセージが書かれているはずが、中身がどう変化するのか、よく読み込まなければ分かりにくい。これからの教育はどう変わるのか、下線などで分かりやすく明示することができないか。

また、「進捗管理」のページで「全国学力・学習状況調査」や「体力合計点の平均値」が上に来ていることで、これまでの教育との違いが分かりにくくなっている。

- ・基本政策1が分かりにくいため、社人研の人口推計も踏まえ、人がいない世の中になるのだから問題発見能力が必要という伝え方をしていかないと伝わらない。AIが必要な世の中になるのだから習得する必要があるというような流れがよいのではないか。

#### ○基本政策5

- ・学校運営協議会に参加したが、地域の方から保護者の声をぜひ聞きたいという声があった。地域の方は、保護者を助けたいという思いが非常に強い。基本政策5はとても重要。不登校など保護者の困りごとを発信していくことが重要だと感じた。

#### ○まとめ

- ・出てきた振興基本計画をどのように受け止めるか、というご意見が多かったと思う。感想になるが、各校や各コミュニティで広めていただく必要があり、各校や各地域課題にあわせ膨らませていく必要があるのかなと感じた。基本政策1についてのご意見も、何か分かりやすくしていく必要があるのか、ヒントになったと思う。ご意見を踏まえて、事務局の方で最終的な形に仕上げたい。

### ■議題3：リーフレット（案）について

#### ○色やイラストについて

- ・3つ折りの着色も今のイラストとしては少し古く思える。基本政策5のイラストが少し分かりにくい。
- ・基本政策4のイラストが先生が見下ろす形になっているため、目線をあわせた方がよいのではないか。
- ・リーフレットで保護者に配信するということだが、こういうグリーンベースでイラストがあるものであれば読んでもらえると思う。ピンク系の差し色があってもよいと思う。
- ・子供同士が楽しそうにしているイラストがあると親も安心する。
- ・文字の大きさや色など、高齢者にとっても読みやすいという点での配慮があるとよい。

#### ○見せ方

- ・基本政策の番号がない方がよい。
- ・基本政策1が真ん中にきているのは、レイアウトの良さが出ている。
- ・安心させるような色味がよい。「子供が主役のこれからの学び」は神戸市の教育の一丁目一番地であるわけだから、必ずしも順番をつけることを排斥するべきではない。「子

供が主役の」という言葉は、どうしてもよくない印象。子供が勝手に決めることはありえないわけで、「子供が主役」という言葉は再考する必要があるのではないかと考える。

- ・基本政策1が真ん中にあるならば、一丁目一番地であるということは伝わると思う。その他の政策はそれを支えるというような配置ができればいいのかもしれない。
- ・こども家庭庁は「こども真ん中」という言葉を使っている。
- ・学校でも生徒主役と言っており、脇役（主役を支える）である保護者・先生がいる。一本の映画をつくるように、子供が全部自分で決めるという意味ではない。立派な大人になるためではなく、今、子供が幸せであることなど「主役」は決して悪い言葉ではない。「まんなか」というのが良ければそれでも良い。

#### ○目指す人間像と教育ビジョン

- ・関係性が分かりにくいので、裏面に構成を記載するのも一つのアイデアかもしれない。

#### ○メッセージ

- ・裏表紙のメッセージは、なぜこういく教育をめざすのかという現状課題などを記載し、「子供が主役のまなび」につながる思考の流れが明示されるとよい。私は「教える」教育から、「支え育てる」教育に転換していくというイメージをもっています。
- ・「学校はこんなに大変だ」というように受け取れるため、ポジティブなメッセージにできるとよい。
- ・「学びを変える」は、今まではそうではなかったのかという印象も受ける。

#### ○ターゲット

- ・子育て世代だけを対象にするのではなく、その手前の世代にもアピールできればよい。
- ・幅広い世代を対象とすることは重要かもしれない。

#### ○その他意見

- ・文字だけではなく動画としてまとめるということも大事。
- ・計画に関する調査については、できるだけまとめて学校に照会してほしい。

#### ○まとめ

- ・様々なアイデアをいただいたので事務局でうまくブラッシュアップしてほしい。これだけの大きな都市の教育をまとめるのは容易なことではなく、場面場面で文脈に沿った説明をしていく必要があると思う。この計画はその核になるものと考えて。大規模なアンケートも含め良い財産にしてほしい。